

氷見市人口ビジョン 概要版

※ライフステージごとの人口移動等の詳細な説明は、氷見市人口ビジョンの「(参考2) ライフステージごとの人口移動と「氷見市15の観点」」に記載しています

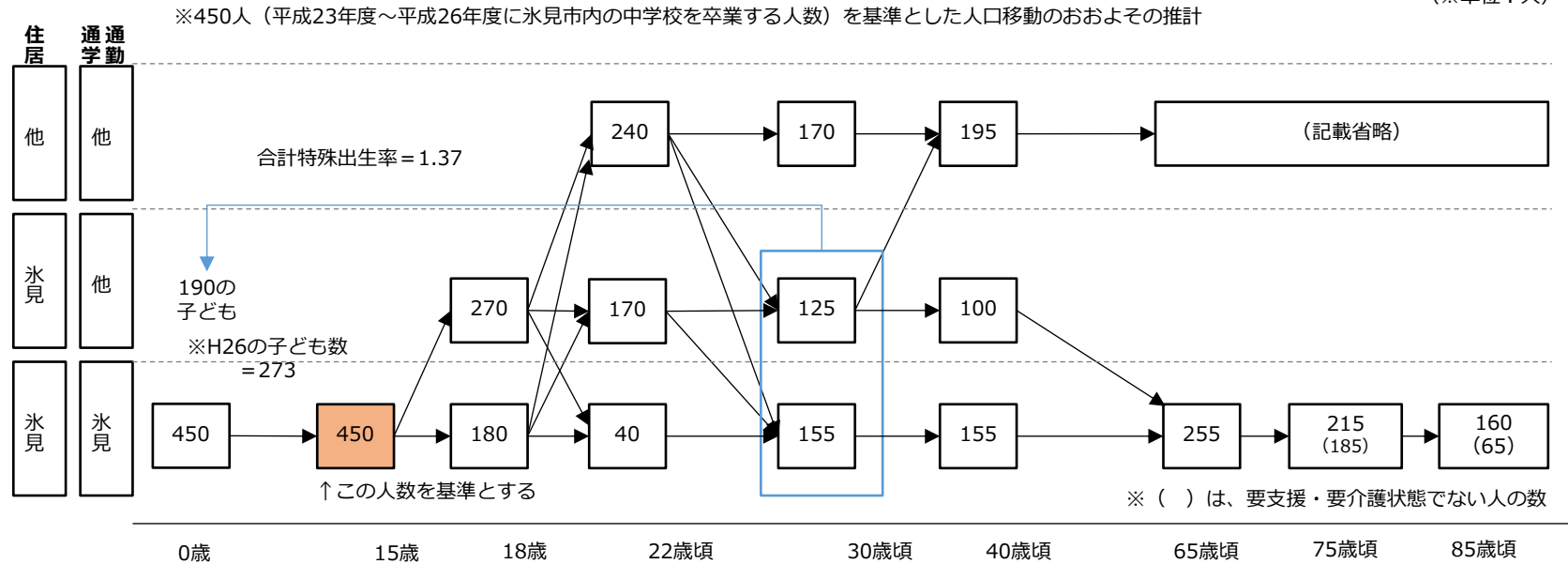
0. 【前提】氷見市の地方創生で重視すること

氷見市は「希望をかなえる」「持続可能な社会を実現する」ことを重視します。そのために、「ライフステージごとの人口移動」を確認し、「15の観点」を設定しました。

重視すること	ライフステージ
(1)希望をかなえる ・帰ってくる (Uターン) ・住み続ける (定住) ・健康長寿で暮らす	就職・結婚・転居・定住 (18・22・30・40・65才)
	長生き世代
(2)持続可能な社会にする (=寸胴型人口ピラミッドの実現) ・氷見を選んでもらう (IJターン) ・地域の子ども数を維持する	就職・結婚・転居・定住 (18・22・30・40・65才)
	誕生・入学・進学 (0・7・15才)

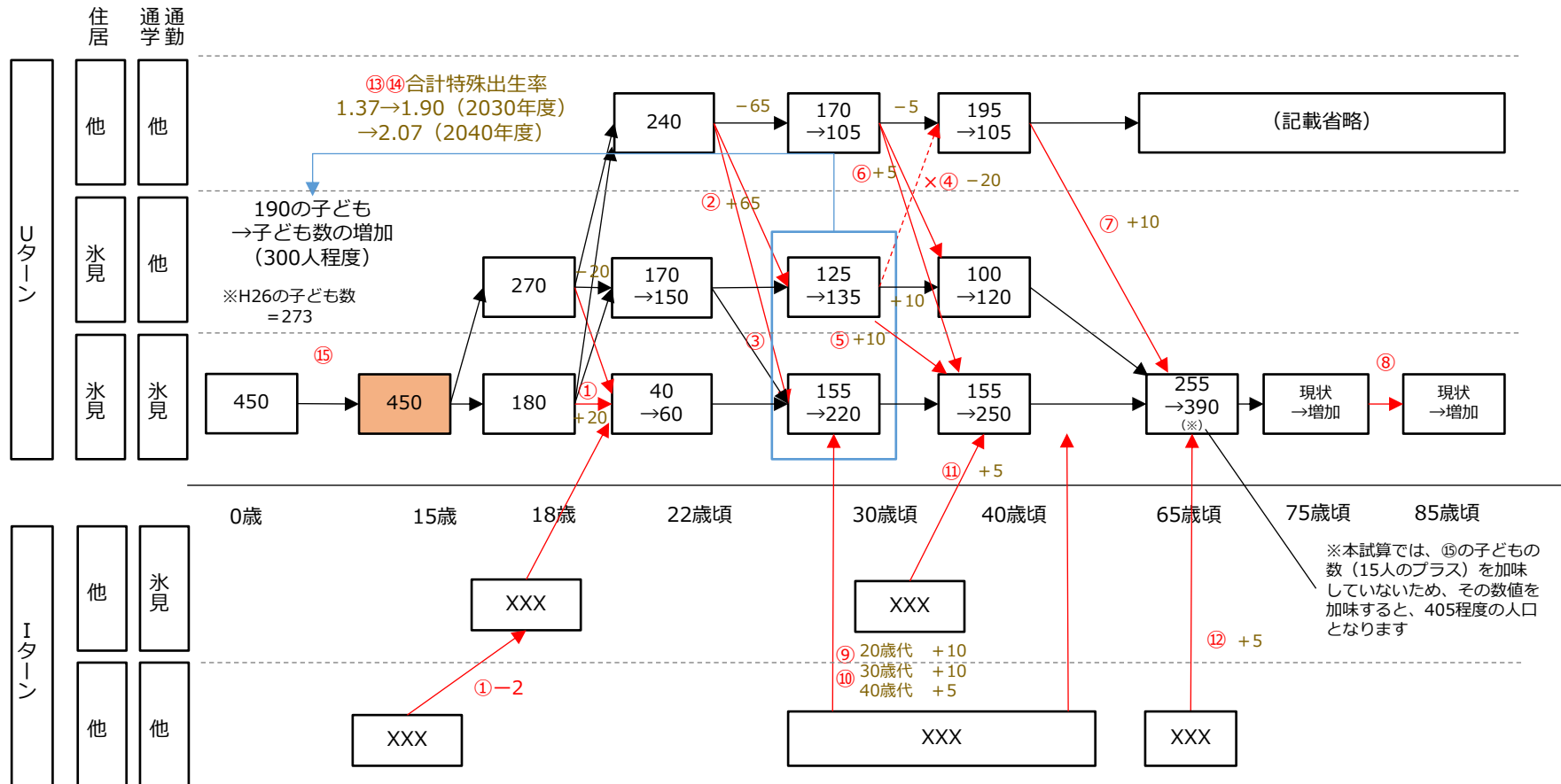
1. 【現状】氷見市の「ライフステージごとの人口移動」

(※単位：人)



※氷見市教育委員会資料(平成23年度～平成26年度の中学校卒業生の進路)、resas『富山県氷見市 年齢階級別純移動数の時系列分析』、S55～H22年国勢調査、とやま統計ワールド経由で取得した「平成11年富山県の人口」および「平成26年富山県の人口」、H25～H27ハローワーク氷見の資料、resas経由で取得した『人口動態調査』、公益財団法人 生命保健文化センター資料(元データは厚生労働省「介護給付費実態調査月報(平成26年7月)」) 総務省「人口推計月報(平成26年7月)」)、国立社会保障・人口問題研究所の氷見市の生残率、住民基本台帳のH26出生数をベースとしてヒアリング等を踏まえて推計を実施。
 数値については、一桁目を5か0とするレベルでの整理を実施。

2. 【観点】希望をかなえ、持続可能な社会にするための「氷見市15の観点」と現状からプラスをする人口目標



15の観点

- 【しごと】氷見市に高卒新卒者が就きたい仕事を増やす
- 【ひとのながれ】他地域からの氷見高校入学者を増やす
- 【しごと】氷見市に20代の方が就きたい仕事を増やす
- 【ひとの流れ】氷見市から他地域に通勤する方の転居を減らす
- 【しごと】④のために、氷見市に子育てと両立する仕事を増やす
- 【子育て】子育ての魅力で氷見市に引っ越し方を増やす
- 【ひとの流れ】定年後のUターンを増やす
- 【安心な暮らし】長生きをする&健康寿命を伸ばす
- 【ひとの流れ】20～40代のIJターンを増やす
- 【しごと】20～40代のIJターン者が就きたい仕事を増やす
- 【ひとの流れ】他地域から氷見市内に通勤する方の転居を増やす
- 【ひとの流れ】定年後のIJターンを増やす
- 【結婚】婚姻数を増やす
- 【出産】出生数を増やす
- 【ひとの流れ】未就学児の親子で氷見市に引っ越し方を増やす

3. 【推計】「ライフステージごとの人口移動」をもとに人口展望を推計

「社会純増」と「出生の条件」を設定し、7つの推計パターンで人口推計を実施

推計パターンと条件	社会純増の条件	出生の条件	死亡の条件
1. 社人研※推計値 ※国立社会保障・人口問題研究所	2020年に社会純増が半減	社人研の推計に準拠 (女性子ども比率を利用して 出生数を計算)	社人研の生残率 に準拠
2. 社人研究推計値で移動が 半減しない場合(社人研の2020 年の純移動率を2倍した値を利用)	2020年に社会純増が半減しない (社人研の2020年の純移動率を2倍 した値を純移動率として利用)		※健康寿命は、 直接人口に反映 されないため、 人口推計結果に は含めない
3. 2で出生率が段階的に向上 2040年以降は2.07で固定	社人研の2020年の純移動率を 2倍した値を純移動率として利用	合計特殊出生率 2015年：1.37 2030年：1.90 2040年：2.07	
4. 3に社会純増が+50人	社人研の2020年の純移動率を 2倍した値を純移動率として利用 +50人の社会純増	※途中の年は段階的に出生 率が向上するものとする	
5. 3に社会純増が+100人	社人研の2020年の純移動率を 2倍した値を純移動率として利用 +100人の社会純増	※「⑩婚姻数を増やす」 「⑭出生数を増やす」を 満たした結果として達成さ れるものとする	
6. 3に社会純増が+150人	社人研の2020年の純移動率を 2倍した値を純移動率として利用 +150人の社会純増		
7. 3に社会純増が+200人	社人研の2020年の純移動率を 2倍した値を純移動率として利用 +200人の社会純増		

パターン6を氷見市の人口目標といたします

<年齢別の年間純増数の内訳>

15の観点を基に、上記のパターン3をベースとした場合の年齢別の年間純増数の内訳を記載しました

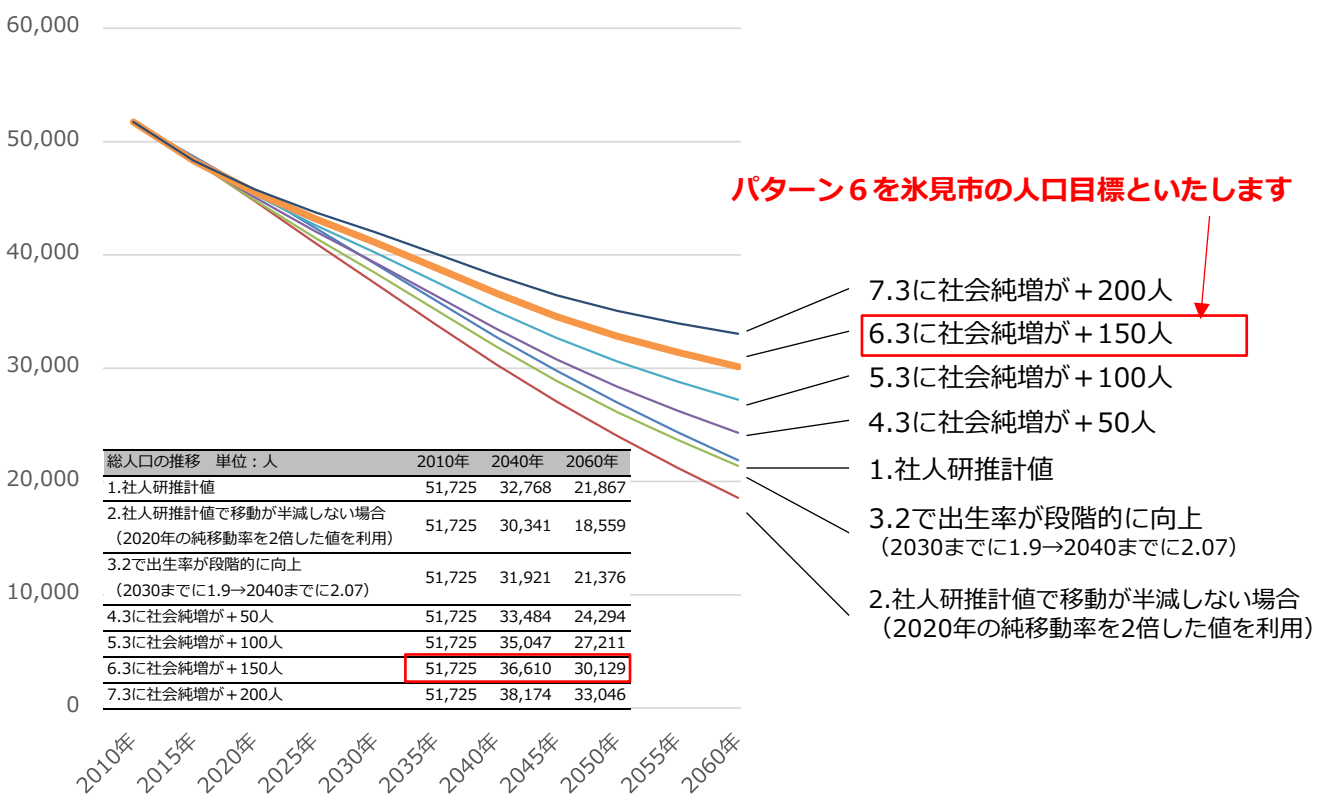
年齢	観点	50人 の人の 純増	100 人の 純増	150 人の 純増	200 人の 純増
0~4歳→5~9歳	15	5	10	15	20
5~9歳→10~14歳		0	0	0	0
10~14歳→15~19歳	①	0	0	0	0
15~19歳→20~24歳		0	0	0	0
20~24歳→25~29歳	②③④⑤⑥⑨⑩⑪	25	50	75	100
25~29歳→30~34歳	④⑤⑥⑨⑩⑪	6.7	13	20	27
30~34歳→35~39歳	④⑤⑥⑨⑩⑪	6.7	13	20	27
35~39歳→40~44歳	⑨	1.7	3.3	5	6.7
40~44歳→45~49歳		0	0	0	0
45~49歳→50~54歳		0	0	0	0
50~54歳→55~59歳		0	0	0	0
55~59歳→60~64歳		0	0	0	0
60~64歳→65~69歳	⑦⑫	5	10	15	20
65~69歳→70~74歳		0	0	0	0
70~74歳→75~79歳		0	0	0	0
75~79歳→80~84歳		0	0	0	0
80~84歳→85~89歳		0	0	0	0
85歳以上→90歳以上		0	0	0	0
合計		50	100	150	200

↑社会純増の人数は年間の人数
※上記4~7の社会純増については、2016年度から上
記分だけ人口が積み増しするという前提で計算する
(2015年度までは積み増しをゼロとして計算する)

- ①【しごと】氷見市に高卒新卒者が就きたい仕事を増やす
- ①-2【ひとのながれ】他地域からの氷見高校入学者を増やす
※高卒の仕事に就いた瞬間に純増しないと想定されるので、①の数をゼロとした(⑤と⑩)に寄与することを想定)
- ②【ひとの流れ】20代のUターンを増やす
- ③【しごと】氷見市に20代の方が就きたい仕事を増やす
- ④【ひとの流れ】氷見市から他地域に通勤する方の転居を減らす
- ⑤【しごと】④のために、氷見市に子育てと両立する仕事を増やす
- ⑥【子育て】子育ての魅力で氷見市に引っ越し方を増やす
- ⑦【ひとの流れ】定年後のUターンを増やす
- ⑧【安心な暮らし】長生きをする&健康寿命を伸ばす
- ⑨【ひとの流れ】20~40代のIターンを増やす
- ⑩【しごと】20~40代のIターン者が就きたい仕事を増やす
- ⑪【ひとの流れ】他地域から氷見市内に通勤する方の転居を増やす
- ⑫【ひとの流れ】定年後のIターンを増やす
- ⑬【結婚】婚姻数を増やす
- ⑭【出産】出生数を増やす
- ⑮【ひとの流れ】未就学児の親子で氷見市に引っ越し方を増やす

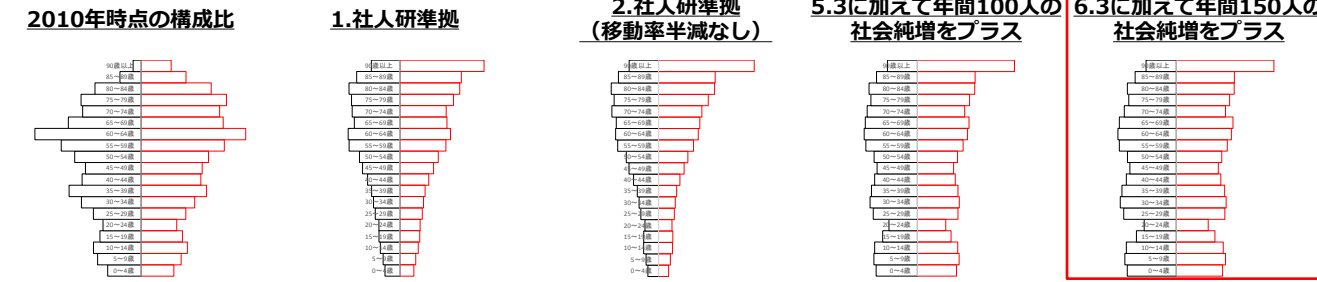
※社会純増の人数は年間の人数。推計条件に従った厳密な計算では、5年間の社会純増数を5で除したものの、例えば、150人の純増のうち、20~24→25~29歳の人数は75人であるが、推計上は5年で375人という単位で計算したものである

<人口推計(7パターン)>



<2060年の人口ピラミッド>

パターン1(社人研推計に準拠)の場合、逆三角形の人口ピラミッドに、パターン6の場合、円柱系に近い人口ピラミッドになります。



※社人研の推計自体は2040年までであるが、社人研の推計に準拠した計算方法で2060年の人口構成比を算出。各種条件については、2040年時点の数値を利用
※上記のグラフは、一番下が0~4歳、一番上が90歳以上で5歳刻みの人口を棒グラフにしたものであり、左が男性の人口、右が女性の人口を記載

<年間社会純増減数の推移>

パターン6の場合、2030年頃に社会純増となります。

社会純増減の推移 単位：人	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年
1. 社人研推計値	-168	-100	-83	-77	-71	-49	-40	-38	-35	-33
2. 社人研推計値で移動が半減しない場合 (2020年の純移動率を2倍した値を利用)	-227	-196	-160	-133	-120	-81	-62	-55	-49	-42
3. 2で出生率が段階的に向上 (2030までに1.9→2040までに2.07)	-227	-196	-160	-131	-123	-99	-87	-80	-72	-67
4. 3に社会純増が+50人	-227	-156	-111	-84	-79	-58	-49	-43	-37	-33
5. 3に社会純増が+100人	-227	-116	-62	-37	-35	-17	-10	-6	-1	1
6. 3に社会純増が+150人	-227	-76	-13	10	9	24	28	31	35	35
7. 3に社会純増が+200人	-227	-36	36	57	54	64	67	68	71	69

※人数は、推計結果を5で割った数を記載(計算便宜上5年単位の集計しかできず、5年単位を1年単位に修正するため)
※増減「率」ベースとして、その計算結果に人数を積み増す方法で推計を行っているため、社会純増減数がゼロに近づく(人口減少によって母数が減るが、人口純増率が一定であるため)
※パターン4~7の推計では、母数が減る一方で毎年同数の社会純増があるため、社会純増減数が増加する
※パターン7において2030→2035の数が減っている理由は、現在の子どもの数が少ないため(2035年頃に進学時に差しかかるが、そもそもの数が少ないため、流出数も少なくなる

パターン6を氷見市の人口目標といたします